In April 2022, Osaka City University and Osaka Prefecture University marge to Osaka Metropolitan University

Title	北朝鮮の食料(穀物)生産
Author	杉野 明夫
Citation	季刊経済研究, 23 巻 2 号, p.65-91.
Issue Date	2000-09
ISSN	0387-1789
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学経済研究会
Description	
DOI	

Placed on: Osaka City University

Osaka Metropolitan University

大阪市大『季刊経済研究』
Vol. 23 No. 2 September 2000, pp. 65-92

北朝鮮の食糧（穀物）生産

杉　野　明　夫

はじめに
Ⅰ　自然災害のもたらしたもの
Ⅱ　天災か人災か
Ⅲ　チュチェ思想の経済的自立
Ⅳ　穀物生産高の公表値と推計値
Ⅴ　技術革命をめぐって
Ⅵ　農業生産の虚と実
Ⅶ　北朝鮮の農業部門が抱える制約
Ⅷ　白米をたらふく食べさせる
Ⅸ　過大な生産目標と集団農民
Ⅹ　あいつぐ制度改革のもとでの農民
Ⅺ　自分の頭で考える
Ⅻ　変化のきざし

はじめに

2000年の今日，朝鮮民主主義人民共和国・北朝鮮と日本との国交正常化交渉が始まろうとしている．この日朝交渉に先立って南北朝鮮首脳会議が，これまた懸案の解決をめぐって開始された．北朝鮮の経済状勢は食糧生産をはじめ底を打ったばかりで長い低迷から根本的に脱出したとはいいがたい．

この考察では直接に最近のこうした局面を問題にするのではない．

1995年に始まる連続的な大規模な自然災害は広く食糧生産の流通・分配の危機を世界に示した．しかし北朝鮮における食糧生産の危機や低迷は，もっと以前少なくとも80年代にさかのぼる．84年，食糧生産が瞬間風速的にでも1,000万トンに達したとされ，今度は無謀にも1,500万トンという途方もない数値を新たな目標としたのは端的なあらわれだった．自然災害にさいしても，単に大規模な自然災害なのか，自然災害に加えて誤った政策や指導による人災なのか，鋭く見解が対立した．

北朝鮮では耕地になし得る面積は狭く，天候・気候の悪い季節が多く，そもそも食糧生産の大幅な増加は無理がともなう．こういう説も一理あり，これによれば1,000万トン内外によく到達したものだ，といえる．

しかし，1,000万トンの食糧をめざす無理な政策を強行し，1,000万トン台の安定的保証を確

〔キーワード〕北朝鮮，食糧生産，チュチェ思想，金日成，農業技術革命

かめずに1,500万トンの目標をかかげた戦略はどこにあったのか．また，ソ連による背信行為の上に大水害が加わったための経済的困難というのは有力な説のようだが，チュチェ思想の経済的自立とどうかかわるのだろうか？多くの重大な問題が解明されなければならない．

I　自然災害のもたらしたもの

1995年の大洪水を中心にした朝鮮民主主義人民共和国・北朝鮮の連続的な3年間の自然災害は，改めて天災か人災かの問題を鋭く提起し，長年にわたる北朝鮮の農業生産とくに食糧生産不振の構図をうかびあがらせ，さらに90年以来の経済全般の低迷を加速した.[1)]

1994年には降雹（ヒョウ）による被害が発生していた．「94年9月には主要穀倉地帯である黄海南道と黄海北道で降ヒョウのため耕地17万ヘクタールが被害にあい，食糧102万トンの損失をこうむった」.

1995年7～8月の「100年来の」豪雨により，8つの道（ドウ）の145の郡（国土の95%）が洪水の被害を受け，520万人が被災し，50万人が避難．死者68人．被害総額は150億ドル．合計119万5000ヘクタールの耕地が被災し，水害による米の減収は108万3000トン，トウモロコシの減収は81万8000トン，貯蔵施設の損壊による穀物の損失は62万6200トン（北朝鮮政府）.
〔このうち，150億ドルの被害というのは過大でないか，との説がある－後の表9および注16）参照〕.

1996年7月末の豪雨により，穀倉地帯の黄海南・北道をはじめ8つの道の117の市・郡が被害を受け，327万人が被災し，死者は116人．被害総額は17億3280万ドル．被災農地は28万8929ヘクタール．浸水や破壊などの被害を受けた住宅は約3万戸，8626棟．また黄海製鉄連合企業所など一部の工場が浸水により操業停止.

さらに95年夏に大きな被害を受けた平安北道の新義市や義州郡も8月，再び「空前の洪水」に見舞われた．増水した鴨緑江の堤防が8カ所，120メートルにわたり決潰し，家屋等が浸水し，多くの農地が冠水した.

この3年連続の自然災害により，食糧（＝穀物）はじめ農業生産が深刻な損害を受けた．この時期は，第3次7カ年計画（87～93年）が食糧生産の未達成もふくめ，成功せず「緩衝期」（94～96年）をおき，経済の立て直しと，「農業，軽工業，貿易第一主義」をかかげて農業の生産性向上を図った，その時期である．洪水や日照りは，その後も報じられ経済の低迷をもたらしている.

II　天災か人災か

北朝鮮の農業不振や食糧不足は今に始まったことではない．公表される食糧＝穀物生産量

1）鈴木典孝「1995～96年の経済」（渡辺利夫編『北朝鮮の現状をよむ』日本貿易振興会，1997年）

は1970年代にも，ごく大ざっぱな数字が示されたにすぎない．80年代になると，80年に900万トン，82年に950万トン，84年に1000万トンの３年だけ粗放な数値が公表されたにすぎず，以降は公表されていない，これは80年代以降の穀物生産がきわめて不安定な状態にあることを示している．

80年代以降だけでなく北朝鮮の穀物生産に関する記述には，ほとんどの年に不利な気候条件，天候不順，まれにみる大水害または日照りなどとかかれている．[2)]

北朝鮮の農業不振と食糧不足の原因が，はたして，異常気象，日照りや豪雨・洪水などの自然災害的な，いわゆる天災なのか，あるいは①元来狭小な耕地にたいし金日成主席（以下，金日成）の主唱した無計画的な拡大（とくにトウモロコシを主とする段々畑の無理な造成），②米やトウモロコシの密植栽培，③化学肥料や農薬の多投による地力の低下，④段々畑の土砂の流出と耕地の埋没，⑤農業機械用の電力・石油の不足，⑥連作による地力の低下，⑦工場，住宅，道路の建設による耕地の減少，⑧協同農場の農民の生産意欲低下と営農方法の粗放化などを含む誤った農業政策と指導にもとづく人災が加わったものなのか，鋭く意見の分かれるところである．[3)] ただ確実なことは，「農業第一主義」をかかげ食糧の増産を図ったにもかかわらず，農業は低迷し，①食糧不足が国民生活に甚大な影響を与えるほどになっている，②今や国際社会に食糧援助を求めなければならないほどに，深刻で緊迫している，という事実である．[4)]

天災なのか，天災プラス人災なのか．北朝鮮の政府当局者は，これまで常に未曾有の自然災害を強調するが，ほかならぬ金日成の著作には，山林管理の放置，土砂崩れ，川床の隆起など政策と指導の誤りが水害の頻発と規模の拡大をまねくと述べている．

「山林をよく管理せずには，いくら河川整理をしても役にたたず，水害を防ぐことができません．山林をよく管理していないため，雨が降ると土砂崩れがおきて川床がだんだん高くなっている．ここ数年間，水害にみまわれた原因は降雨量にもありますが，主な原因は川床が高くなったことにあります（傍点は杉野）」[5)]．一国の指導者として大胆率直な指摘をしたものである．

「このたび汽車で咸鏡へ行く途中見ると……谷間の山は，ほとんど，はげ山になっていました．こんなことをするので，大雨になると土砂崩れがおきて大同江の川床が高くなる．以前には万景台の前を流れる川は水深が深くて船が自由に通れましたが，今は島と島の間の水路

2）桜井浩「行きづまる農業と食糧難」（玉城素・渡辺利夫編『崩落かサバイバルか，北朝鮮』サイマル出版会，1993年）

3）文献１）２）および次の４）参照．

4）富塚利雄「農業・食糧問題の動向」（注１）所収，文献１）２）４）は内容に重複する所が多く，それぞれ参照しながら叙述した．

5）金日成「国土管理事業を改善するために」1965年（金日成・金正日『自然環境の保護・造成』白峰文庫，1987年）．

が埋まって，船が往来できなくなりました．こんな状態を放置すれば，南浦や平壌はいずれも洪水をまぬがれないでしょう」[6]．

「満浦，楚山一帯では45度以上の急傾斜地まで新たな土地開墾を理由に，はげ山にしたとのことです．こうすれば結局，土砂崩れが生じて鴨緑江の川床が高くなり，そこにある発電所が正常に操業できなくなる恐れがあります」[7]．

Ⅲ　チュチェ思想の経済的自立

金日成の主唱した主体（チュチェ）思想は，もともと思想における主体，政治における自主，経済における自立，国防の自衛を強調し，ソ連・中国の政治・経済大国に依存しない自立性を表現していた．しかし，のちになると「チュチェ思想は人間中心の新しい哲学思想」であり「人間があらゆるものの主人であり，すべてを決定する」などが強調され，次第に抽象的な論理展開を主としているのでないか．私は80年の訪朝のさい，エネルギーの自立の可能性を聞いたが，原油輸入におけるソ連，中国などの比重を答えられただけだった（人民経済大学）．また経済学部を出た人のチュチェ思想に関する著作にも，前出のような一般的・抽象的な原理が述べられているだけで重要産業やエネルギーの自立など経済の自立が全く論じられていなかった．

この後，ソ連は社会主義体制を離脱し，91年から友好国への援助を含む特恵的貿易を中止し，ドル建ての貿易に転換した．この措置は北朝鮮に甚大な打撃を与えたが，それはこれまでの北朝鮮の経済が自立的でなく，ソ連にいかに依存していたかを裏書きしたのである[8]（傍点は杉野）．

80年代にはソ連と中国合わせて，約300万トンの原油輸入があったが，ソ連からの輸入は90年に41万トン，91年には6.5万トンへと急激に落ちた．中国はその後も100万トン程度の原油を提供．原油輸入は平時の2分の1から3分の1に下がったと見られる．[9]

貿易とくに輸入の激減，原油の不足は，北朝鮮に電力不足，機械予備部品の不足，原料不足などをもたらし，工場の操業率は半分以下に落ち，深刻な経済危機をもたらした．

すでに62年のキューバ危機でミサイルを撤去したソ連に北朝鮮は反対し，はげしく批判した．またソ連主導のコメコン体制への加盟圧力をきびしく拒否した同国が，経済的自立をどこまで本気で考えていたのか．さらにチュチェ思想と関連して経済統計の公表について，私は91年の訪朝時に質問し討論した（社会主義経営管理研究所）．食糧をふくむ主要統計数値を

6）同上書
7）同上書
8）和田春樹『北朝鮮－遊撃隊国家の現在』岩波書店，1998年
9）同上書

主人公である人民のものにし，思わしくない数値であっても公表して人民を奮起させ激励することが，チュチェ思想からいっても正しいのではないか，公表すべきではないか，と聞く．アメリカ帝国主義や韓国反動派が悪用する，との答え．公表しないのは公表できないのであり，経済状態の極度の不振・不安定を示すものとして受け取られるのではなかろうか．

さて70年の時点で金日成は全く大胆な指摘をしている．「近年，穀物生産は伸びなやんでいます．農業部門の幹部はその原因を自然気候条件の不順に求めていますが，農業を科学技術的に営んでいる今日，農業不振の原因を自然気候条件にのみ転嫁することはできません．……幹部の農業にたいする指導のふてぎわに起因するものです」[10]．

農業不振の原因を自然気候条件の不順に求める考え－昔も今も存在する－の誤りを正しく指摘している．しかしこの不振の原因は，中間指導部の「ふてぎわ」に押しつけることもできない．たとえば，チュチェ農法にいう適地適作の原則も，性急な強引な「耕地探し」によって踏みにじられたり，急激な強制的な集団化と度重なる動員による農民の勤労意欲低下など誤った農業政策や指導には，金日成は責任がないのか．さらに「農業を科学技術的にいとなんでいる」すなわち農業の水利化，機械化，電化，化学化が達成されたことを金日成は前提にしているが，果たして実際に達成し，現場でうまく機能しているのか．このことが問われなければならない．

Ⅳ　穀物生産高の公表値と推計値

穀物生産高の推移を見よう．政府当局の公表数値は，76年800万トン，79年900万トン，84年1,000万トンと，きわめて粗放で大ざっぱ．それ以降は公表されていない[11]．ＦＡＯ（国連食糧農業機関）は，各年の推計値を示していて貴重だが（表１），84年1,000万トンという北朝鮮の公表値に引きずられ，これを土台に以降の推計値を示したのでないか，と私は見る．（金日成は後に見るように，政務院，農業委員会，統計局の数値がみな違っていた，と述べた．生産数値は，また下級から上級にいく間に水ましされたのではないか）．

ＦＡＯは1,000万トンの数値に引きずられたが，90年代に入って食糧の大幅低下を認めて修正したようである（表２参照）[12]．さらに，アメリカ国務省資料による食糧生産量の推計．表３をみると，80年代まではなお農業生産は順調だったように見える．それが，90年代に入って，急速に低下していく．食糧難は最近の大水害が原因ではないのである[13]．なお北朝鮮がいう1,000万トンは粗放な数値だが，84年に最高水準を示した，とアメリカも推計している．

10）金日成「穀物生産を増大させる諸問題について」1970年（『食糧自給と国家の自立性』白峰文庫1997年）
11）桜井浩，前掲書（注２）参照．
12）『世界国勢図会』95／96国勢社，1997年
13）重村智計『北朝鮮データブック』講談社，1997年

表1　穀物生産高の推移

(単位：千トン)

	公表生産高	推計生産高			
		穀物計	米（籾）	とうもろこし	その他
73	5,340				
74	7,000(4,000)				
75	7,700				
76	8,000				
77	8,500				
79	9,000(4,200)				
80	9,000	8,730	4,960	2,200	1,570
81		8,735	4,900	2,250	1,585
82	9,500	9,000	5,000	2,330	1,670
83		9,488	5,200	2,500	1,780
84	10,000	10,230	5,570	2,600	2,060
85		10,715	5,800	2,680	2,235
86		10,990	6,000	2,700	2,290
87		11,564	6,200	2,900	2,464
88		11,872	6,350	2,950	2,572
89		10,345	5,450	4,450	445
90		10,205	5,300	4,400	505
91		10,080	5,100	4,500	480

※（　）内は籾米.

（原注）公表生産高は『朝鮮中央年鑑』朝鮮中央通信社，各年．なお，これ以後，穀物生産高の公表はされてない．推計生産高はＦＡＯ，"Production Yearbook" various years.

（出所）桜井浩論文．（注２）

表2　食糧生産の年平均増加率（%）

	総量			人口1人当たり		
	1985～90	90～95	95～96	1985～90	90～95	95～96
北朝鮮	1.1	−3.9*	−3.9	−0.7	−5.7*	−5.7
韓　国	2.3	2.3	−0.5	1.2	1.3	−1.4

（注）北朝鮮の＊は90～94年平均.

（出所）ＦＡＯ生産年鑑など

北朝鮮の食糧生産について，ＦＡＯは84年には1,000万トンをこえ，88年，89年には1,200万トン前後と見たが，93年に521万トンと急落し，94年には452万トンにと，さらに落ちこんだ，と見ている（表４）．内訳には米とトウモロコシが主である．ちなみに，韓国ではこの時期に700～800万トンでほぼ推移しており，内訳は米を主とする．なお，野菜は91年に北朝鮮446万トン，韓国1,020万トンと，前者の野菜は伸びてきたがまだ少ないことが目立つ（表５）．

北朝鮮の食糧生産量について，今村はいう．そもそも84年の1,000万トンは過大な数字と受けとられていたが，以後穀物生産に関する発表がないから，それよりさらに少なくなってい

表3　北朝鮮の農業生産推計（米国務省資料）

（単位：万トン）

年	北朝鮮発表	米専門家	米国務省	韓国統一院
1960	380	342		
1961～65	資料なし			
1966	420	385	346.6	
1967～73	資料なし			
1974	700	579	521.1	
1975	770	636	572.4	
1976	800	661	594.9	
1977	850	702	631.8	
1978	資料なし			
1979	900	744	669.6	
1980	900	744	669.6	
1981	資料なし			
1982	950	785	706.5	
1983	資料なし			
1984	1000	826	743.4	
1985～88	資料なし			
1989	610		549.0	
1990	資料なし			
1991	600			442.7
1992				426.8
1993	564		507.6	388.4
1994			412.5	412.5
1995	344		345	440
1996	250	420	320	369

（出所）重村智計『北朝鮮データブック』.（注13）

表4　北朝鮮と韓国（カッコ内）の最近の食糧生産

年	食糧生産量（万トン）	耕地1ha当たり収量（kg）	米（万トン）	トウモロコシ（万トン）
1985	1049.5（858.7）	4,333（5,647）	560（785.5）	268（13.2）
1989	1204.0（889.2）	4,681（5,984）	640（820）	300（11.8）
1992	1075.6（771.2）	6,685（5,706）	580（720）	447（7.5）
1993	521.0（709.9）	2,878（5,608）	294（659.7）	196（9.0）
1994	452.5（758.8）	3,237（5,808）	210.4（705.6）	214.0（7.5）
1995	524.1（692.3）	3,386（5,864）	258.0（651.9）	235.0（9.0）
1996	498.0（667.6）	3,547（5,779）	280.0（628.4）	200.0（7.0）
1997	366.4（760.1）	2,646（6,452）	234.7（710.0）	113.8（7.5）

（出所）ＦＡＯ生産年鑑より作成.

表5　野菜の生産量

（単位：万トン）

年	北朝鮮	韓　国	日　本
1985	282.1	945.5	1540.7
1989	314.5	837.4	1475.8
1991	445.9	1020.5	1502.2

（出所）表4に同じ.

ると考えられる[14].

90年代は，相次ぐ天災と農業政策そのものの破綻によって，生産量はさらに減少していった，と思われると今村は表6をかかげる.

表6　北朝鮮の食糧生産状況

（単位：千トン）

年	FAO推計	韓国統一院・韓国銀行推計
1989	8,100	5,482
1990	7,750	4,812
1991	7,300	4,427
1992	7,000	4,268
1993	6,640	3,488
1994	5,600	4,125
1995	4,930	3,451

（出所）国際問題研究所『北朝鮮の食糧事情』（1997）

さらにＦＡＯの推計によると，90年には150万トン近く，91年は351万トンの穀物を輸入していった（ここでは略したが今村が示した表では，それぞれ119万トンと314万トンで，やや異なる－杉野）．当時とくに自然災害があったと伝えられていないから，平常の天候でも必要量を満たす食糧生産ができず，すでに半分近くを輸入に頼っていたことになる（今村）．〔91年は730万トンの生産，314万トンの輸入である．－傍点は杉野〕

大水害ののち98年５月には，ＵＮＤＰ（国連開発計画）との共催で「農業復興と環境保護のための円卓会議」が開催され，共和国側から今後３年間に，自給自足できる水準－600万トンまで食糧生産を回復させることを目標にした行動計画が示された．このさい次のような，米とトウモロコシの生産高など詳細な統計が提出されている.[15] これが900万トン，1,000万トンと大ざっぱな数値しか出せなかった同じ国の統計かと驚くほかない－ＵＮＤＰとの共同作業だからかもしれないが.

14）今村弘子『中国から見た北朝鮮経済事情』2000年　朝日新聞社

15）朴廣「共和国経済の現状」（鎌倉・呉・大内編『入門　朝鮮民主主義人民共和国』雄山閣，1998年）

表７　農業生産　道別米生産

（もみ換算　100万トン）

道／直轄市	1989	1990	1991	1992	1993	89-93 平	994	1995	1996	1997 推計
咸鏡北道	0.13	0.11	0.13	0.17	0.05	0.12	0.06	0.09	0.05	0.07
咸鏡南道	0.40	0.44	0.44	0.49	0.29	0.41	0.30	0.21	0.14	0.10
江原道	0.18	0.18	0.19	0.18	0.15	0.18	0.13	0.09	0.06	0.05
東海岸	0.71	0.73	0.76	0.84	0.49	0.71	0.49	0.39	0.25	0.22
平安北道	0.62	0.79	0.64	0.68	0.83	0.71	0.60	0.25	0.20	0.13
平安南道	0.93	0.89	0.74	0.79	1.03	0.88	0.79	0.39	0.24	0.27
南浦市	0.12	0.12	0.12	0.10	0.15	0.12	0.11	0.07	0.06	0.08
黄海北道	0.33	0.41	0.33	0.37	0.43	0.37	0.12	0.15	0.11	0.19
黄海南道	1.23	1.16	1.09	1.25	1.36	1.22	0.77	0.55	0.38	0.48
西海岸	3.23	3.37	2.92	3.19	3.80	3.30	2.39	1.41	0.99	1.15
両江道	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.01
慈江道	0.03	0.01	0.03	0.04	0.04	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02
平壌道	0.27	0.26	0.29	0.27	0.30	0.28	0.20	0.14	0.11	0.13
開城道	0.08	0.10	0.08	0.10	0.11	0.09	0.01	0.04	0.03	0.04
内陸地	0.39	0.38	0.41	0.42	0.46	0.41	0.25	0.21	0.16	0.20
合　計	4.33	4.48	4.09	4.44	4.75	4.42	3.13	2.01	1.40	1.57
人　口(百万)	19.77	20.08	20.40	20.73	21.06	20.40	1.38	21.70	22.03	22.36
精米換算 (100万トン)	3.24	3.36	3.07	3.34	3.56	3.31	2.18	1.40	0.98	1.10
生産高 (kg／人／年)	164	167	150	161	169	162	02	64	45	49

（出所）『入門　朝鮮民主主義人民共和国』（注15）

表８　農業生産　道別とうもろこし生産高

（単位：100万トン）

道／直轄市	1989 実際	1990	1991	1992	1993	89-93 平均	1994	1995	1996	1997
咸鏡北道	0.36	0.38	0.21	0.26	0.17	0.28	0.19	0.13	0.09	0.04
咸鏡南道	0.46	0.47	0.50	0.40	0.28	0.42	0.41	0.15	0.09	0.01
江原道	0.24	0.13	0.20	0.15	0.16	0.18	0.19	0.09	0.02	0.02
東海岸	1.06	0.98	0.91	0.81	0.61	0.88	0.79	0.37	0.20	0.07
平安北道	0.64	0.65	0.70	0.69	0.73	0.68	0.53	0.11	0.10	0.22
平安南道	0.62	0.57	0.56	0.52	0.56	0.57	0.55	0.15	0.10	0.15
南浦市	0.07	0.08	0.08	0.10	0.08	0.08	0.07	0.04	0.03	0.01
黄海北道	0.50	0.43	0.54	0.41	0.44	0.46	0.37	0.14	0.08	0.05
黄海南道	0.82	0.58	0.71	0.60	0.75	0.69	0.62	0.29	0.11	0.30
西海岸	2.65	2.31	2.59	2.32	2.56	2.48	2.14	0.73	0.42	0.73
両江道	0.03	0.02	0.02	0.02	0.03	0.02	0.03	0.01	0.01	0.01
慈江道	0.18	0.17	0.20	0.15	0.15	0.17	0.19	0.06	0.06	0.07
平壌道	0.17	0.18	0.20	0.19	0.25	0.20	0.12	0.07	0.05	0.03
開城道	0.07	0.04	0.06	0.05	0.05	0.05	0.05	0.03	0.01	0.01
内陸地	0.45	0.41	0.48	0.41	0.48	0.44	0.39	0.17	0.13	0.12
合　計	4.16	3.70	3.98	3.54	3.65	3.80	3.32	1.27	0.75	0.92
人　口(百万)	19.77	20.08	20.40	20.73	21.06	20.40	21.36	21.66	21.97	22.28
1人当たり生産高(g／日)	602	532	564	491	512	529	455	173	103	125
(kg／人／年)	220	194	206	179	187	193	166	63	38	46

（出所）表７に同じ．

表7，表8によると，連続自然災害の前89～93年の米生産量は平均して442万トン（もみ換算）で，トウモロコシは380万トンと内訳が判る．

なお表9はＧＤＰ（国内総生産）が示され，大水害の前年94年のＧＤＰは154億2200万ドル．前出公称の被害額150億ドルはこれに匹敵する！

表9　1992-1993年国内総生産ＧＤＰ　（単位：100万米ドル）

	1992	1993	1994	1995	1996	1997
農業	4,551	4,689	3,223	2,228	1,556	1,867
工業と建設	9,122	9,483	7,341	6,042	5,283	
サービス業他	7,160	6,762	4,858	4,532	3,748	
GDP	20,833	20,934	15,422	12,802	10,587	
人口(100万)	20.73	21.06	21.38	21.70	22.02	22.35
国民一人当たりのGDP(ドル)	1,005	994	721	590	481	

（出所）表7に同じ．

北朝鮮発表の大水害規模について，「実際の被害は10分の1程度の10～15億ドル」ではないかとの指摘もある．それによると，西側では100m²当たり450ドルの道路復旧費を，北朝鮮は1,789ドルと約4倍近くに計算しており，さらに3～5日ほどの浸水でも60%程度の被害と計算する農耕地も，北朝鮮側は一度浸水すると97%の被害と算定している，という[16]．

大水害による96年の食糧生産の低落に話をもどすと，生産量，需要量，不足量を各機関が推計している対比（表10，表11）がある．このなかでは北朝水害対策委員会が生産量で最も低い数値を出し，需要量では最も高い数値を示し，従って不足量は他機関の数値よりずっと多い最高の数値が出ていて興味深い．韓国側に比べた北朝鮮側の示す不足量の多さは援助問題の熱い展開を予想させる．

表10　各機関による食糧需給推計量　（単位：万トン）

	1996年生産量	需要量	不足量
北朝鮮水害対策委	250	784	534
世界食糧計画	320	675	355
韓国統一院	369	677	308
韓国安全部	369	583	214
農村経済研究院	240～280	620	340～380

（出所）表3に同じ．

16）富塚利雄，前掲書（注4）参照．

表11　北朝鮮の食糧需要と供給不足

（単位：万トン）

年	生　産	輸　入	供給量	需　要	不　足
1991	442.7	92.0	534.7	640	105.3
1992	430.0	109.0	539.0	650	111.0
1993	390.0	60.0	450.0	658	208.0
1994	412.5	90.0	502.5	667	164.5
1995	345.0	95.0	440.0	640	200.0
1996	250.0	66.2	316.2	640	323.8

（原注）米国務省資料などから作成.

（出所）表3に同じ.

V　技術革命をめぐって

北朝鮮では，64年2月に『わが国における社会主義農村問題に関するテーゼ』を採択したが，そこに農村の技術革命が位置づけられている．技術革命の基本的課題は，水利化，機械化，電化，化学化である.[17]

水利化の実施は，水害と干害にうちかち，農業で安定した高い収穫をおさめ，農業生産の不断の成長を保証する基本的なうらづけとなる.

「稲作が大きな比重をしめ，ほとんど毎年ひどい水害と干害に見舞われる」（同テーゼ）北朝鮮の農業にとって水利化はとくに重要な意義をもつ.

水利化ではすでに基本的な課題を解決した．今後は，どのような日照りや洪水にあっても，つねに豊作を得られるように，従来の水利化の成果を固め，拡大すること．とくに米の増産のため，2,3年内に水田面積の70万ヘクタールへの拡大がめざされる.

機械化は，農業において労働生産性を高め，農民の労働を楽にする目的で実施される.

今後，鋤きおこしから，取り入れ，脱穀にいたるまで，すべての農作業を機械化し，農業の総合的機械化を実施する．共和国の農業の特殊化にあう新しい農業機械を考案し，製作するとともに，土地の整理をおこない，耕地方式を改善するなど機械化に有利な条件をつくりだす.

今後は，トラクターの台数を7～8万台（15万馬力を1台とする）に，トラックは3～3.5万台にふやす.

電化は，農村の技術革命と文化革命に重要な役割をはたす．農村を電化せずには，水利化と機械化の十分な実施もできず，文化的な農村建設も期待できない.

すでに，全農村の里（リ）の93.3%，農家総数の71%に電気がひかれている．近い将来，す

17）金日成『社会主義農村テーゼ』白峰文庫，1980年

べての農村と農家に電気が入るようにする．農業に電動力を効果的に利用し，脱穀，揚水，飼料の粉砕や切断など固定した場所でおこなわれる作業はすべて電化するという．

化学化は，農作物の単位面積当たりの収量を高める重要な方法．農業に化学を応用すれば土壌を改良し，土地の肥沃度を高め，農作物の成長と結実を促し，病虫害を防ぎ，雑草をなくすことができる．

化学工業の発展の結果，63年に農耕地にたいするヘクタール当たり化学肥料の施肥量は300kgに達し，品種構成はいちだんと改善され，農薬の供給量もいちじるしくふえた．

化学化における課題は，土壌と農作物に適合した化学肥料の供給と，各種の殺虫剤・除草剤の供給増大．化学肥料のヘクタールに当たり施肥量は，「近い将来500kgに，ゆくゆくは1トン以上に」引き上げるべきである……（78年からは，2トン以上に引き上げる目標がかかげられている）．

このように，共和国の技術革命は水利化，機械化，電化，化学化から成る総合的な壮大な展望をもつ．だがわれわれは，たとえば化学肥料の無秩序な施肥や多投なのではないかとか，電力・石油の不安定な供給や不足の下での機械化の実情とか，現場からの視点が必要であろう．

農業機械の保有台数をＦＡＯ生産年鑑各年版によって見ておく．84年，88年，90年の農業用トラクターは6.8万台，7.7万台，7.3万台で収穫機・脱穀機は数字を欠く（表12）．

表12　農業機械保有台数

（万台）

		農業用トラクター	収穫機・脱穀機
北朝鮮	84年	6.8	—
	88年	7.7	—
	90年	7.3	—
韓　国	84年	0.8	0.7
	88年	2.5	2.5
	90年	4.1	4.4
日　本	84年	165.0	104.2
	88年	198.5	124.4
	90年	212.0	128.0

（出所）ＦＡＯ生産年鑑各年版．

また化学肥料の消費量をＦＡＯの統計から見ておく．北朝鮮は韓国とともに単位面積当たり消費が多いが，1ヘクタール当たり1トンや2トンという目標は現実と大きい距離がある．なおカリ肥料の少なさがめだつ（表13）．

表13　化学肥料消費量

（単位：万トン）

	窒素(N)	燐酸(P_2O_5)	カリ(K_2O)	合　計	1ha当たり消費量(kg)
北朝鮮	59.7	13.2	4.5	77.4	334.8
	63.4	14.8	3.0	81.2	338.1
韓　国	40.2	18.1	19.5	77.8	359.2
	43.9	19.4	22.2	85.5	399.1
日　本	69.7	77.7	63.1	210.5	440.4
	64.0	72.6	57.7	194.3	415.1

（注）いずれも上段は84／85年，下段は88／89年の数値．
（出所）表12に同じ．

Ⅵ　農業生産の虚と実

1981年に北朝鮮を訪問した川田信一郎，東大農学部教授．日本農村の機械化貧乏などが念頭にあったためか，彼の地のチュチェ農法をたたえ，見聞した農村の成果に感銘して『一国の農業は斯くありたい』という著作を書き，そのなかで機械化の急速な進展に着目している．[18] 水稲については，耕耘（100%），苗取り，田植え（92～95%），除草（55%），収穫（70%，コンバイン，バインダー），脱穀（100%）と共和国の統計をかかげた（表14）．さらに田植え機に注目し，（イタリアでは田植えの機械化を企てたが，効果的な田植え機はできずに中止となり，直播の機械化となった）．共和国は独力で60年に考案した（日本，イタリアのものを参考にして）と述べている．

表14　主要農作業の機械化率

（%）

	1970	1974～75	1980
起耕・代かき	61	100	100
田植え	0	92	95
除草	12	55	55
収穫	8	66	70
脱穀	87	100	100
飼料粉砕	78	100	100
運搬作業	59	100	100

（注）化学的方法による水田除草は水田総面積の97%，100 ha当たりトラクター台数は，（15馬力換算　1980）平野部7台，中間・山岳部6台．
（出所）川田信一郎「6カ年計画実施についての共和国中央統計局の報道」『月刊朝鮮資料』1975年12月号37頁，等から作成．

18）川田信一郎『一国の農業は斯くありたい』農山漁村文化協会，1985年

これに対して，徹底的に自分の眼で観察し，自分の頭で考え，公表統計の数値も信用せず，「北朝鮮不作の構造」を浮かび上がらせた李佑泓『どん底の共和国』がある[19]．

まず段々畑づくり．段々畑では降雨による土砂の流出を防止する装置が必要不可欠だが，共和国ではほとんど施されていない．栽培される植物は，すべて生育期の短い，根をはらないトウモロコシ－日本の段々畑では茶，ミカンなどの多年草－だから，大雨にあえば土砂の流出は避けられず，川床を上げ天井川にしてしまい，灌漑にも支障をきたし，結果的に農業を台無しにする．段々畑づくりを基本に進められた「チュチェ（主体）農法」こそ，共和国の自然破壊の基本要因であり，農業不振と食糧減産，ひいては深刻な食糧難をもたらした元凶だという．

機械化について．平壌の農業機械展示場には，さまざまな最新式農業機械が陳列されていた．しかし著者は，田植えや田の除草など農作業風景を何回も目撃したものの，そこに展示さえていた農業機械が実際に使用されているのを，ほとんど見たことがなかった．大量に動員された農民ないし労働者，事務員たちが鍬や鋤で土を耕したり，農耕牛を使って耕地を掘り返したり，田植えをしたりする場面にしか，めぐり合っていない．－共和国では田植えの時期になると，全国一斉に都市の労働者，学生，人民軍兵士が「農村支援隊」として大量に動員される．

機械による田植えが行われているならば，都会や軍隊が一つの集団農場に数千人もの多くの労働力を提供する必要はないだろう．

田植えは，まれには田植え機によって行われているが，機械の性能が劣悪なため，田植えの後の手直しに大変な労力を費やさねばならない．

著者は『朝鮮画報』などにのった田植えの写真で，田植え機を運転し，苗を補給している女性二人が，農作業には似つかわしくない派手ないでたちをしており，宣伝用のモデルであることを紹介している．

この田植え機は「土付き落下式」で日本では60年代ごろに製造された田植え機の図体を大きくしたものだ．だがそれは，土のやわらかい湿田にはよいが，粘土質の赤土を基本とする共和国での田植えにはあまり向かない．土に穴を開けて植える「強制植えつけ」ができないからだ，という．

化学化について．化学肥料は不足しがちで窒素肥料はともかく加里肥料や燐酸肥料が極端に少ない（植物の育成には前者は不可欠だが，結実には後者が必要）．農場に供給された化学肥料は「機関本位主義」「地方本位主義」が災いし，〝使わなければ損〟とばかり，地質や農作物の種類を考慮せず，すべてばら播くことが珍しくない．水稲をはじめとする共和国の農業は堆肥プラス糞尿肥料に大きく頼らねばならない，という．

公式発表のとおり84年に500万トンの化学肥料が生産されたとしても，この肥料をどうやっ

19）李佑泓『どん底の共和国』亜紀書房，1989年

て各地の農場に運ぶのか．4トン・トラック125万台（のべ）が輸送に必要だが，久しく輸送事業が「緊張」している共和国に余裕はない．仮に輸送手段が保障されて，各地に配給されたとしても，貯蔵し保管するに値する，まともな倉庫は，ほとんどない．化学肥料は一度雨にぬれれば溶けてしまう．貯蔵し保管する倉庫がないばかりに，多くの化学肥料が無駄になっている，と胸をいためている．

栄養壺の問題．トウモロコシに栄養壺による苗づくりは，チュチェ農法の象徴ともいえる手法である．

アメリカやソ連，日本でも寒冷地帯では霜害を防ぐため，トウモロコシの種子を一定の容器またはビニール・ハウスや温室の中に入れておき，ある程度まで苗を育ててから畑に定着させる．しかし共和国では苗づくりに必要な機材や設備も電力や燃料に不足するため，この手法が考案された．堆肥の中にトウモロコシの種子を5，6粒づつ入れてはまるめ，それを畑の中に掘った穴の中に一つ一つ積み重ねる．〔白峰文庫の注によれば，保水性，栄養素に富む泥炭を素材にして栄養壺をつくり，それによって栽培する〕－確かに，堆肥の中にトウモロコシの種子を入れて地下に保存する方法でも，堆肥の発酵熱と湿気で芽をだすことはできる．しかし双葉が開いた後，すぐに太陽光にあてなければ，その苗は丈（たけ）だけは伸びるが，ひ弱なものになり，畑に定植した後もその影響が残る．

トウモロコシの苗を畑に植えつけるさいにも，農業機械・道具の不足のため，深耕はできず，浅植えせざるを得ず，成長してから風で倒れやすい．しかも超密植のため，風通しが悪く，成長する葉が重なり日光がまんべんなく当たることもできない．－共和国では肥料不足のため満足な施肥ができないばかりか，超密植でわざわざ日光や風に当てたりすることさえ，さえぎっており〝天然の養分〟を生かす道さえ，自らが封じ込めている，と著者はのべている．

なお『どん底の共和国』で指摘されている，運搬手段や倉庫や脱穀機などの不足は，金日成演説の内容と奇妙に符合している．

「協同農場には穀物を適時に運ぶ運搬手段も足りず，穀物倉庫も不足し精米所の能力も十分でない．とりわけ協同農場の脱穀能力が非常に緊張している．適時に脱穀ができないため，ネズミやスズメに食われたり，稲束を何回も移しかえるうちに落ちてなくなった籾だけでも，毎年15～20万トンにのぼる．乾燥場の能力も，たいへん不足し，穀物の乾燥が間にあわず，湿り気のあるものをそのまま倉庫に入れなければならないありさまです」[20]．（1974・11・29．最高人民会議での演説）

金日成は，このように協同農場での実際に起きている問題点を率直に指摘しており，『どん底の共和国』の指摘と符合している．本の題名から，毛嫌いして読まない，とか信用しないというのは良くない．著者は朝鮮総連の活動家で果実の生産や流通に長じていた実績を買わ

20）金日成「最高人民会議での演説」1974年，前掲書（注17）所収

れて元山農業大学の講師に招かれた．

なお金日成は，農作物の密植と施肥の方式をチュチェ農法の不可欠な内容と重視している．－「わが党のチュチェ農法は，農作物の生産学的特性を考慮して肥料を数回にわけて施し，元肥は少量ほどこすことを要求している．ところが農業大学の教科書には，元肥をたくさんほどこし，6月15日以後に農作物に施肥するのはよくない，と書かれている．」
「農作物の栽培方法についても，わが党にチュチェ農法に反した記述をしています．わが党のチュチェ農法は農作物の密植を要求していますが，農業大学の教科書には，密植すると風通しが悪いのでよくないと書かれています．農業大学でこういうふうに教えているのですから，農業大学を卒業した人が，どうして農業を正しく指導できるでしょうか．」[21]（「わが党の水産政策を貫徹しよう」1976年11月）

素人のわれわれには判定しにくいが，密植すると風通しが悪いのでよくない，という理論の方が筋がとおっているのではないか．チュチェ農法に反する，反しないというよりも，農学者と農民が討論を重ねて実験し，その判断を尊重しなければなるまい．なお，チュチェ農法に反する，として農業大学とその教科書を批判していることに注目したい．

Ⅶ　北朝鮮の農業部門が抱える制約

韓国の経済学者，方燦栄は3点の制約を指摘している[22]．以下では注釈をつけずに掲げておく．

①北朝鮮の直面する恒常的な食糧難の原因の一つは，農耕地の不足である．現在，耕地面積は200万ヘクタールで，国土総面積の19％にすぎない．（表15によれば16.6％，杉野）91年基準で食糧自給率が37.5％であることを考えると，耕地面積の狭い北朝鮮に農業生産の大幅な増加による自給自足の達成は期待できない．

②肥料の過度の使用により土質が低下しており，段々畑式耕法の実施によって内陸の水道（水路のこと）や小河川の損傷がいちじるしい．

1976年10月，党中央委員会第5期第12次全体会議で採択された「自然改造五大方針」によって，段々畑は15万ヘクタールから20万ヘクタールにふやされた．この段々畑建設策は，耕作地を拡大してトウモロコシを増産するには役立った．しかし，土砂の流出を防ぐ樹木を伐採したため，川床を高めて耕作地の荒廃をもたらし，農業生産に大変な支障をきたした．浚渫作業を進め，内陸水道を深く掘り，なによりも段々畑方式を縮小，廃棄しなければならないので，短期的には農業生産の増加は望めない．

21）金日成「わが党の水産政策を貫徹しよう」1976年（『水産業を発展させるために』白峰文庫，1980年）

22）方燦栄・重村智計『北朝鮮崩壊せず』光文社，1996年

③石油と電力の供給が不足しているため，農業機械の使用が減少し，耕作に必要な農業用水の供給も減っている．

これらが直面する三大問題である．農業分野がこうした構造的な脆弱性を抱えていては，経済発展の過程で農業部門が担うべき役割と機能を円滑に果たすことはできない．その結果，農産物は輸入に頼らざるを得なくなる．したがって，外貨を稼ぐためには，戦略的な輸出主導型の産業の役割がそれだけ増大することになる．

表15　農業就業人口と耕地面積

	農業就業人口 (1996)（千人）	就業人口に占める割合（%）	耕地面積 (1995)（千ha）	国土面積に占める割合（%）	穀物生産量 (1996)（千トン）
北朝鮮	3,762	33.4	2,000	16.6	4,980
韓　国	2,823	12.8	1,985	20.0	6,676

（出所）ＦＡＯ生産年鑑による．

Ⅷ　白米をたらふく食べさせる

北朝鮮では，第２次７カ年計画の（78～84年）の目標の中で食糧1,000万トンを打ちだしだが，計画の遂行中，80年10月の第６回党大会で，「80年代の10大展望目標」（80～90年）の１つとして食糧の1,500万トンがかかげられた．また，85，86年の2年間の調整期（計画の空白期間）をおいたあとの第３次７カ年計画（87～93年）では，目標の１つとして食糧の1,500万トンをかかげた．

こうして1,000万トンの真の達成も確認されないまま1,500万トンという膨大な目標がめざされた．食糧生産の中で米の内訳は不明だが，米には特に重大な意義が与えられる．

「社会主義建設の目標は，人民に十分な衣食を提供し幸せな暮らしをさせるところにあります．人民生活で最も重要なのは食物問題，主には米の問題であります．」[23]「米はすなわち共産主義であります．米びつから人情が生まれるというたとえどおり食糧が豊富であれば，人民の意識状態もすぐれ，すべてが順調に運びます．」[24]

白米をたらふく食べさせる，とは判りやすく強いアピールである．「すべての人びとが等しく，共に白米と肉のスープを食べ，絹の着物を着て，瓦ぶきの家で暮らすという，わが人民の世紀的な念願を実現することは，社会主義建設で当面われわれが達成すべき重要な目標で

23）金日成「肥料はすなわち米であり，米はすなわち社会主義である」1965年（『食糧自給と国家の自立性』白峰文庫，1987年）

24）金日成「全社会のチュチェ思想化をめざす人民政権の任務」1982年（同上書所収）

あります」．93年の「新年の辞」である．1961年に，白米と肉のスープを食べさせる，と語ってから何度も述べられた，この公約を金日成（94年7月逝世）はついに実現できなかったことになる．

「今日では，朝鮮民主主義人民共和国の全国民は，文字どおり，白米をたらふく食べている」と述べた川田信一郎は，米と食糧（米，トウモロコシおよびその他の穀物をふくむ）をとりちがえている[25]．著者は，米が1人1日で共和国は約700g（実は食糧－杉野），日本は約210g，と対比表示している．

1980年頃の日本は，多様な多量の副食をとり，パンと麺食がふえ，米の消費は減っていたが，共和国では副食が少ないから食糧が多くいるのである．1人1日700gと決定された食糧の配給は、73年から戦時備蓄の名目で1ヶ月に4日分（12%）を差しひかれ，87年から，さらに10%を節約米として追加削減された（重村，前掲書，注13）．

配給食糧の白米対雑穀の比率について，明白な数字は判らない．党幹部たちは100%の白米をもらうが，一般労働者や事務員は3対7の割合で穀物が多いのが普通で一般軍人は4対6の割合で白米が一般労働者よりもやや多い，と91年出版の『北朝鮮どうなっているか』聯合通信はのべる[26]．

北朝鮮で食糧事情が最もよかった80年頃でも，白米をたらふく食べるどころではなかった．白米を腹一杯食べさせる，という公約は民衆をまだひきつけていた．

Ⅸ　過大な生産目標と集団農民

穀物の1,000万トン生産目標であるが，74年11月に最高人民会議で演説した金日成は，この達成はそれほど難しい問題ではない，という．「増産の潜在力はいくらでもある．中間地帯で先進的な営農方法を積極的にとりいれて農業を科学的，技術的におこなえば穀物の収穫をいちじるしく高められる．山間部でも種子の問題を解決すれば多くの穀物生産の潜在力が生まれる．腐植土肥料工場をはやく建設してトウモロコシの栄養壺移植を100%おこない，畑にも腐植土を施せば穀物の収穫をいちじるしく高めることができる．耕地整理をよくおこなうだけでも，全国的に10万ヘクタールの土地を得ることができる」[27]．

指導者がこう演説すれば，多くの代議員が1,000万トンの生産目標を短期間に達成できる，と発言する．1,000万トンの生産目標が84年に達成された，とするのは，第2次7カ年計画（78～84年）の終了時であったのと関連する．計画期間中に工業生産では2.2倍の増大が見こまれ，農業部門では穀物生産高を1,000万トンの水準にひきあげ，農業の総合機械化と化学化の

25）川田信一郎，前掲書（注18）参照．
26）聯合通信『北朝鮮はどうなっているか』三一書房，1991年
27）金日成「農村テーゼの完全な実現のために」前掲書（注17所収）

実現がめざされていた．第２次７カ年計画によって工業部門では年間平均成長率は12.2％に達し，交通運輸部門では電化が進み貨物輸送量が増加した．平壌や各地方では自然改造と都市建設事業が進み，さらに金日成にたいする「忠誠の贈物」として多くの記念碑的建築物＝「モニュメント」が建造された，と発表される．こうした雰囲気のなかで，農業部門では穀物生産高1,000万トン水準を達成しましたと報告される．この「達成はそれほど難しい問題ではない」と74年に演説していた金日成は疑問視したり反対する理由はなかった．

さらに，（第６回党大会で示した）1,500万トンという膨大な穀物生産目標の達成だが，金日成は82年４月の演説で，「四大自然改造計画課題」をもちだし，その完遂をのべている．[28]

「耕地面積が限られ農業生産の集約化水準が高い段階にある状況下で穀物を増産するには，耕地面積を決定的に拡張することである．

党の示した四大自然改造計画課題（注：南浦閘門建設，泰川発電所建設，30万ヘクタールの干拓地造成，20万ヘクタールの新耕地開墾をさす）を貫徹して海面干拓を大々的におこない．多くの新しい土地を開墾し，干拓地の用水問題を解決するための南浦閘門建設と泰川発電所建設を終えれば，穀物生産を画期的に高め，電力生産を大幅にふやすことができる」．

「穀物生産目標を達成するためには，農業の総合的機械化と化学化をはやめ，チュチェの農法を貫徹する．とくに，農作物の育種事業を改善して生産性の高い新品種を多くつくり，農作物の栽培方法をさらに改善して，ここ数年内に穀物のヘクタールあたり平均収量を稲は９トン，トウモロコシは9.5トン以上にひきあげる」（傍点，杉野）．

このように，1,000万トンの生産水準が真に達成できたのか，この生産水準以上を安定的に確保する見通しがあるのか，その十分な検討もなく一拠に1,500万トンという途方もない生産目標をあらたにうちだし達成可能だ，とした．ちなみに後に北朝鮮水害対策委員会は96年の生産量を250万トンとし，同年の需要量を784万トンと発表している．1,000万トンの食糧生産達成を発表したのだから，次は1,500万トンだ，というのは，あまりにも根拠がなく乱暴な話である．

この1,500万トン達成のため，一方では海面干拓，新耕地開墾による耕地面積の決定的拡張，他方ではここ数年内にという早急な単位面積あたり収量の引きあげが主張された．何に迫られたのか，金日成指導部のあせりと無計画性が目立つ．金日成は農村の実情，経済の実態を把握できてなかった，といわざるを得ない．

「わたしが1973年に農業を指導した当時，農業部門には正確な統計数字がありませんでした．わたしに報告される党中央委員会各署の数字，政務院の数字，農業委員会の数字，中央統計局の数字がそれぞれみな違っていました」と驚くべきことを水産部門の会議で述べている．[29]

28）金日成24）参照

29）金日成「わが党の水産政策を貫徹しよう」1976年（『水産業を発展させるために』白峰文庫，1991年）

「いま水産部門にも正確な統計数字がないので，同じことでも，ああいう人もいれば，こういう人もいるありさまです．……いま水産部門では年に80万トンの水揚げをしているといいますが，人民に供給する分はいくらにもなりません．社会主義社会では，統計が正確でなくては人民経済を正しく管理運営することができません」．正確な統計を要求した76年の発言だが，食糧生産の正確な数値はその後も公表されず，金日成には水まし数値や喜ばす報告ばかりあげられたのかも知れない．彼自身も食糧1,500万トンに見たように，統計を重視して経済の実態をつかむ努力をしていたとは思えない．

話をもどす．四大自然改造目標に見られる干拓地30万ヘクタール，開墾地20万ヘクタールを造成すれば，1,500万トンの穀物も可能であり，「食糧問題が一挙に解決すると考えられた」．南浦閘門および泰川発電所の建設という「集中建設方式は，生産力が飛躍的に高まり，隘路が一挙に除去されるはずだという，先入観的な『思いこみ』にもとずいている．こうした経済の循環構造への配慮を欠いたアンバランスな新規生産力造成第一主義が，80年代の北朝鮮経済全体を極端な変調に導いたのである」[30]．

後の91年「新年の辞」では，一転して干拓地造成が姿を消し，客土による既成耕地の地力強化策を打ち出している[31]．

北朝鮮の「自然改造」は「人間がすべての主人である」とするチュチェ思想にかかわる，と私は見ている．「自然改造は後に痛烈な自然の報復を受けるのがつねである」と関川夏央は重要な指摘をした[32]．たとえば，中国の大躍進時代，土法炉の燃料調達のため樹木が伐られた．北朝鮮では耕地拡大をめざした「土地探し運動」の結果，山間部で樹木を伐り倒し，山の急峻な斜面にもトウモロコシを植えた．森の喪失は山本来の膨大な保水力を奪い，大雨とともに表土流出をおこす．土壌が極度に悪化するだけでなく，土砂は平地の田畑をへて川に流れこみ，川床をかさ上げして洪水の原因となる．洪水は平野部の農地を荒廃させ，結果，食糧事情を逼迫させる．そうなったとき，方針なき農業指導は再びみたび耕地拡大のために森を喪失させる，という致命的な悪循環におちいる．いったいに「手から口へ」で生きていかざるをえない第三世界では，エコロジーなど二の次という切迫した事情があり，北朝鮮もその例にもれないという同情すべき点はあるにしろ，政府主導の「大衆的政治運動」として大規模自然破壊をすすめ，合理性や長期的展望にいっさい口出しを許されないところに北朝鮮の悲劇の根がある．

中央集権的な大土木工事は別の不合理をも生む．久仁弘は「このため，かねて戦争時を考慮して地方拠点に分散配置されていた各基幹産業，その他工業部門からは，原材料，熟練工場労働者の多くが，平壌その他の土木工事に吸いあげられ，機械・設備の交換・補修部品の

30）玉城素『北朝鮮破局への道』読売新聞社，1996年
31）同上書
32）関川夏央『退屈な迷宮』新潮社，1996年

補給が断たれるなど各種甚大な被害を受けた」と指摘した[33].

X　あいつぐ制度改革のもとでの農民

食糧の1,000万トンとか1,500万トンの生産目標をめざす金日成指導部の政策や措置を，これまで見てきた．他方，農民はどう考えて生きてきたのだろうか．筆者も1971年に「朝鮮の社会主義企業」『現代企業形態の研究』所収（ミネルヴァ書房）で，土地改革から農業協同化を概観した．いま主に桜井浩，玉城素著作を借りる[34].

土地改革．ソ連の占領下にあった北朝鮮では，45年秋，小作料を収穫高の3割とする政策がとられ，これに反対する地主との闘争が展開された．この過程で土地改革法令が制定され，早くも同月末には土地改革の完了を宣言．地主は土地だけでなく，家屋，家畜などの主要財産をすべて没収され，農業を続ける場合には他郡に移住しなければならなかった．北朝鮮に住むことをあきらめ南朝鮮に移住した地主もかなりの数に達した．

（中国では全国土の解放以前に土地改革が解放区で実施され，全国解放後の50年に土地改革法が公布された．農民の立ちあがりが促され２年余りの時間をかけて土地改革を実施した．北朝鮮と中国との対比！－杉野）

農業協同化．土地改革によって地主・小作関係は完全に精算され，すべて個人経営となった．

この制度は約７年間つづき，朝鮮戦争の停戦後，間もなく農業協同化が開始．農業協同化は急速にすすみ58年８月に100％達成された．協同経営には，土地を統合せず共同労働だけをおこない，土地の広狭，良否によって分配する第一形態，土地を統合して協同経営を実施するが，提供した労働と彼の出資した土地におうじて分配する第二形態もあったが，土地と基本的な生産手段を統合し公有化して，労働の質と量におうじて配分する第三形態に，すべての組合が58年８月末に移行し，わずか数年で農業協同化が全農村で完成した．

８月段階に成立した1万3309の協同組合は，同年10～11月の２ヶ月間に，約４分の１の3843組合に統合された．それは完全に行政末端の里（リ）区域に合わせた統合であったから，里人民委員会が協同農場管理委員長を兼任することになった．こういう行政組織と協同農場を強引に一致させる措置を２ヶ月間で実施してしまうやり方は，強権発動なしには考えられない．（玉城）

第１次５カ年計画（57～61年）には千里馬（チョンリマ）運動と青山里（チョンサンリ）方法という大衆動員路線が展開された．

千里馬運動は人びとを共産主義思想で教育し，継続前進をすすめ，消極性と保守主義を除

33）この部分は『海外事情』1989年６月参照．
34）桜井浩，前掲書（注２）および玉城素，前掲書（注30）参照．

き，大衆が革命的熱意をもって社会主義建設を最大限にはやめる大衆進軍運動である．チュチェ思想とともに北朝鮮の経済発展のスローガンとなった．

青山里方法は，60年2月，金日成の青山里への現地指導にもとづいて，官僚主義的指導をなくし社会主義建設を推進するための基本方法だ．①大衆の熱誠や創造性を発揮させるため，政治工作を優先させる．②上級幹部は下級幹部をたすける．③たえず現場におりていき，現実を正確に把握すること，を内容とする．要するに，労働党が協同農場をしっかり把握し，指導する集団指導方式である．政治工作によって大衆の革命的情熱をかきたてることを重視する社会主義建設の方式は，現在まで一貫して変わっていない．

『わが国における社会主義農村問題に関するテーゼ』（64年2月に採択，以下『農村テーゼ』）：このテーゼは，共産主義社会にいたる農業，農民問題を展望した，農業政策の基本である．主な柱は，①農村で技術革命，文化革命，思想革命を遂行する．②農民にたいする労働者階級の指導，農業にたいする工業の支援，農村にたいする都市の支援を強める．③協同的所有をたえず全人民的所有に接近させること．

注目すべきことは，社会主義のもとでも，農民の意識には古い思想の残りかす，とくに小所有者的根性が長いあいだ残り，もし思想工作を弱めると，頭をもたげ，助長される．ただ長期間にわたる忍耐強い教育と不断の闘争をとおしてのみ，農民の思想意識を完全に改造することができる，とする点である．

協同農場に急速なスピードで組織（すなわち土地，財産の切離し）された農民は，労働者階級を代置する労働党の指導と管理をいっそう強く受けることになった．

作業班優待制と分組管理制[35]．協同農場には5～10の作業班があり，各作業班はさらに3～5の分組に分かれ，分組は10～25人程度で構成される．作業班優待制とは作業班に生産計画任務を与え，その90％以上を達成したときには，超過分を作業班員に分与する制度である．協同組合が組織された当初，分組は基本生産単位である作業班の下にある単なる労働組織単位にすぎなかった．66年からすべての協同農場で分組管理制が実施され，協同農場の最小労働組織・生産組織単位になった．

大水害をへた96年に入り分組管理制に新しい措置が講じられた．①分組の規模を7～8人に縮小．②分組単位の生産計画を各分組毎に過去3年間（93～95年）の平均収穫高とそれ以前の過去10年間の平均収穫高を合わせた平均値より若干低く設定．③超過達成した分にたいする処分権を分組に付与．

要するに，優待制という刺激制度を作業班から分組のレベルに下げたものである．生産の実態をより「各戸請負い」（中国）に接近させるものとして注目されたが，農業政策の根本的転換，すなわち資本主義的要素を取り入れた新しい経済モデルの模索と捉えるのは早計すぎる．

35）主として朴廣，前掲論文（注15）のコラムによる．

以上のように，協同農場下の農民は，きびしい規制を受け，誤った農業政策や農法を押しつけられ，朝令暮改に苦しみ，生産意欲は低下せざるを得なかったであろう．とくに90年ころから慢性的な農業不振と食糧不足におちいった．（ただ分組管理制の新措置は，大災害を契機に出された，窮余の一策ながら注目する必要があろう．）

以上の制度的改革に加えて，経済建設の実施過程から来た問題点があろう．①「重工業の優先的発展」による軽工業と農業の圧迫，②政治的大衆動員，何度もの「速度戦」の呼びかけによる疲弊，③計画を度外視した「記念碑的建造物」－凱旋門やチュチェ思想塔－や都市建設への動員，④指導者による，経済法則を無視した恣意的な価格決定．－これらは，経済の低迷と不安定をもたらし，農民の生産意欲低下につながったことであろう．

XI　自分の頭で考える

〈チュチェ思想を述べている論文や講演には，金日成主席は教示しておられる，として引用し，同じような言葉で言いかえ，また金日成主席は次のように指摘しておられる，と引用･･･という繰返しが多い．これでは面白くないし，直接に金著作を読んだほうがましだ．金主席だけが考え，他の人は自分の頭で考え，自分の言葉で話すことをしない．こういう偏向が役人や学者にあると思うが，思想的怠慢ではないか．自分の頭で考える，というのはチュチェ思想の良い点の一つだと思うが，先のような偏向を改めるにはどうすればよい，とお考えですか〉．

何度かあったチュチェ思想の講演会で私はこう質問した．講師の先生は立ち往生し，司会者が演壇にかけより，中断．実はその時，「自分の頭で考える」をどこかで読んだ記憶はあったが，はっきりしていなかった．今回，金日成著作から探して70年11月，朝鮮労働党第５回大会の報告にあることを，あたらめて知った．

「チュチェを確立することは，自国の革命と建設にたいして主人としての態度をもつということです．これは，他人への依頼心をすてて，自分の頭で考え，自分の力を信じ，自力更生の革命精神を発揮して，自分の問題はどこまでも自分自身が責任をもって解決していく自立的な立場を堅持することを意味します」.[36]

さらに72年１月「当面の政治経済政策といくつかの国際問題について」の第一体系．

「革命は輸出することも輸入することもできません．他国の人が革命を代行するわけにはいきません．･･･さらには，労働者階級と人民大衆の革命運動が発展するにともない，以前には提起されなかった，困難で複雑な問題が新たに数多く提起されました．したがって，それぞれの国の革命では，なによりも主人であるその国の人民自身が努力し，たたかわなければならず，革命と建設において提起されるすべての問題を自分の頭で考え，判断し，自分自身の力

36）金日成『チュチェ思想について』白峰文庫，1979年

で，自国の実情にそくして解決していかなければなりません」[37]．

これら金日成の言葉を我田引水し，共和国内部に自分の頭で考える集団を予想するのは早計であろう．後継の金正日氏はいう．「中心のない統一団結はありえません．統一団結の中心は革命の指導者，領袖です．わが党の統一団結の中心は偉大な金日成同志です．金日成同志は朝鮮革命の最高頭脳で，最高指導者であります」．（金正日，労働党中央委員会の責任幹部におこなった演説．1986年）[38]．

社会的運動の主体が人民大衆であるという命題を，北朝鮮統治者たちは，「階級主義と首領絶対主義」に合うように歪曲した，と黄長燁（元朝鮮労働党中央委員会書記）は指摘する．彼らは，人民大衆の利益は労働者階級が代表するのだから，人民大衆の真の利益を擁護する立場は，すなわち労働者階級の立場であり，労働者階級の真の利益を擁護する立場は，すなわち労働者階級の党の立場であり，労働者階級の党の利益を理想的に擁護する立場は首領の立場である，と主張するようになった．　こうして北朝鮮統治者たちは，「社会的運動の主体は人民大衆である」という命題を，「社会的運動の主体は労働者階級であり，労働者階級の党であり，労働者階級の首領である」という命題に変質させてしまい，「人民大衆の立場はすなわち首領の立場」であると主張するようになった[39]．

社会的運動の主体は人民大衆である，という命題が，結局，領袖・首領に収れんされる構造をよく示しているが，農業生産でどの畑に何を，どんな深さで植え，どんな肥料をいつ施すのかまで，「最高頭脳」の「現地指導」で決定したのは，もともと無理であり，今後はもう出きる話ではない．共和国の現実では，ただちに自分の頭で考え，行動する人が輩出することは，困難で不可能であろう．しかし，人民大衆の日々の生活や生産から成る社会的運動では，自分の頭で考える労働者，農民，知識人が現れ活動することが不可欠であろう．不幸なことに，無謀な生産計画に反対する集団は現れなかった！

XI　変化のきざし

1995年の大水害ころから，北朝鮮に大きな幾つかの変化が，あるいは変化する力と阻止する力との衝突が現れている，これは何を意味するのだろうか．

①従来は食糧難があっても外部には秘匿したようだが，94年末から食糧確保に向けてあわただしく動きだし，日本や韓国やタイに米の支援を求めだした．95年の大水害で穀物の190.1万トンの損失があった，と北朝鮮当局はのべた．注目されるのは，政府が水害前に95年の穀

37）金日成「当面の政治経済政策といくつかの国際問題について」第一体型，1972年（『朝鮮におけるチュチェの確立』白峰文庫1983年）
38）金日成・金正日『人間中心の社会主義』白峰文庫，1991年
39）黄長燁『北朝鮮の虚偽と真実』光文社，1999年

物生産量を566.5万トンと予測，年間必要量763.9万トンにたいし197.4万トンもの不足をあらかじめ見込んでいたことが明らかになった．これは「近年中に1,500万トンの穀物生産目標を完遂する」とした，（94年4月に最高人民会議が打ちだした）緩衝期の目標が全く非現実的であることを浮きぼりにしている．[40]

②金日成時代と打って変わって，食糧の調達を各国でおこない，国際的な食糧支援を求めるようになった．「食糧を十分確保してこそ，民族の自主性を守り，国家の発言権も獲得できる．農業不振で他国に食糧を乞い歩くようでは，自主性を守れず発言権をもつこともできません」（金日成）[41] －大変な変わり方！

③精密な統計数値を示すようになった（前出）．

④ＦＡＯをはじめとする諸機関や外国ジャーナリストに現地の視察・調査を認めるようになった（③④は食糧支援の期待と関係があろう）．

⑤北朝鮮は，向こう数年間毎年100万トンもの食糧支援を外国に期待しなければならない．96年3月に北朝鮮を訪れた「朝鮮半島エネルギー機構」（ＫＥＤＯ）の代表にたいして，北朝鮮の高官から「食糧事情が深刻だ．食糧支援でＫＥＤＯのような支援機構を作れないだろうか」と相談をもちかけられたという[42]．

飛躍かも知れないが，石油につづいて食糧についても国際分業のなかに位置づける考えが共和国の内部で現れるかも知れない．（国際支援の要請，調査団の受けいれなど，これは深刻な事態の結果でもあるが，新しい国際秩序の中に北朝鮮も入りこみつつあることのしるしである～和田）[43]

⑥「新農業思想理論」を金正日が打ちだした．具体的には，（イ）農民の意志を尊重した適地適作，適期適作，（－金日成も主張したが，新たな耕地造成，「土地探し」で，結果的には無視される－杉野）．（ロ）ジャガイモ栽培革命，（ハ）二毛作の実施，（ニ）種子革命，（ホ）土地整理事業の展開などが柱だ．これは「主体農法」を発展させたものとされているが，北朝鮮農業の特色だった単一栽培やトウモロコシ重視は改められており，実態的には金日成の「主体農法」は棚上げ，放棄された，と言ってよい．[44]

⑦分組管理制の新措置に見られる「改革」の萌芽（前出）．

⑧「改革・開放」はなお禁句であるが，この方向への変化と萌芽がある．さらに，自由経済貿易地帯に見られるように「改革なき開放政策」には限界があり，実施の過程で部分的に改革の要求が出てくる．（労働者の自由な雇用，物資調達のさいの，資材の価格の決定方法，自由経済貿易地帯で生産された製品を北朝鮮国内で販売するさいの，価格設定と支払い条件

40）鈴木典好，前掲書（注１）
41）金日成「全国農業大会での演説」1979年（『社会主義農村テーゼ』白峰社，1980年）
42）重村智計，前掲書（注13）
43）和田春樹，前掲書（注８）
44）鈴木典好「強勢大国への道は遠い」『外交フォーラム』1999年９月

がどうなるかも不安だ).[45]

⑨経済成長は低迷を続け，国内総生産（ＧＤＰ）の成長率は98年に実質1.1％減で90年から９年連続でマイナス成長となった．しかし部門別には農林漁業が前年比4.2％増とプラスに転じ食糧事情改善への動きを示した（「朝日」99・８・27）．早急な判断はできないが経済成長が農林漁業部門から長い低迷状態を脱するのかどうか注目すべきだろう．さらに，アメリカの経済制裁の一部解除（99・９・18）は，この動きに弾みをつけることになろう．

表16　北朝鮮の経済成長率

（%）

	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995
GNP成長率	3.3	3.0	2.4	-3.7	-5.2	-7.6	-4.3	-1.7	-4.5

（出所）鈴木典幸（注１）より作成．数字は韓国統一院，韓国銀行による．

新年2000年の「労動新聞」など共同社説には，経済状態はなおきびしい，としつつも，経済発展の課題として電力，石炭，金属，鉄道，軽工業の後に農業をかかげた．これが優先順位であれば問題である．前年には食糧問題解決が最優先されたのが一転したからである．農業部門ではチュチェ農法の貫徹，種子革命とジャガイモ栽培革命，二毛作，家畜の大量飼育などあげられるが，何を土台に何を動力にするとか，長い経済低迷からの脱出に見合う適確な処方箋が求められる．

ちなみにＦＡＯ（国連食糧農業機関）とＷＦＰ（世界食糧計画）が発表した99年の食糧生産は347.2万トンであり，最低だった96年（ＷＦＰ320万トン，北朝鮮水害対策委員会250万トン）から少しは回復している．報告書は今後一年間の必要量を476.5万トン，不足分を129.3万トンとした．そのうち北朝鮮が商業ベースで輸入する30万トンを引いた99.3万トンの支援が必要とされる（『朝鮮時報』99年12月10日）．好転のきざしが見えるとはいっても129.3万トンもの不足量なのである．

⑩ 自立的民族経済など机上の空論である．北朝鮮の経済を蘇生させ，経済発展を促すためには，経済改革・開放の道をとるしかない，という方燦栄．

この韓国の経済学者に，金正日から北朝鮮を訪問して，経済を再建できる政策を教示してほしい，と要請してきた，という[46]．現状打開のため，いくつかの方策とルートが試みられている現れであろう．

（あとがき）

北朝鮮の経済を研究する重要性はここ十年をとっても，いよいよ明白であろう．しかし研

45）重村智計，前掲書（注13）
46）方燦栄・重村智計，前掲書（注22）

究者はきわめて少ない．

困難の第一は北朝鮮が長らく統計数値を公表しておらず経済の実態が判りにくいことだ．しかし韓国，アメリカや国際機関は苦心して推計している．第二には，日本人の主体的な研究に，（北朝鮮および）北朝鮮を支持する在日の組織が加えた圧力である．どんなささいなことでも，北朝鮮について批判的な研究や言動をする研究者やジャーナリストに圧力をかけた（重村，注13参照）．新聞社に勤めた同氏の苦労は大変なものであったろう．大学などにいて学問研究の自由をかかげる研究者たるもの，あらゆるタブーをなくし，また自主規制をやめなければなるまい．

今度の論文には，金日成著作をかなり引用した．同著作にたいして，一つは金科玉条として暗誦・学習の対象とする傾向がある．今一つは頭から嫌って読もうとしない傾向がある．このいずれをも取らなかった．こんな発言をしたのか，そこまで指摘していたのか，と思っていただければ幸いである．

北朝鮮の食糧問題という，その任でないことを承知のうえで，このテーマにあえて挑戦，喜寿とかいうのを迎えて脱稿（1999年９月14日）．

参考文献として他に以下のものがある．

①金日成『土地法について』白峰文庫，1982年
②徐大粛『金日成の北朝鮮』岩波書店，1999年
③ＮＫ会編『北朝鮮Ｑ＆Ａ100』亜紀書房，1992年

（追記）2000年の南北首脳会談の背景に北の深刻な経済的危機がある．危機脱出の道は韓国の経済協力提案を受け入れるしかない，と判断したのだろうとの説がある（金学俊『朝日新聞』2000年６月21日）．北の経済成長率は昨年に10年ぶりにプラスに転じ，食糧事情は今年に入って好転しつつあるが，食糧はなお不足している（『朝日新聞』６月21日）．トウモロコシの新品種スーパーコーン開発で著名な韓国の金順権教授は，北の農業について述べている．「増収を焦るあまり，通常の倍以上の本数を植える密植や，品種が不揃いな混植が目立った」（『朝日新聞』６月30日）．金日成氏とは違って密植はよくないと書いてきた私見はこれと符合する（2000年７月記）．

（2000．7．27受理）